

伝統文化交流事業 in ゆとろぎ

越中八尾

富山県民謡越中八尾おわら保存会による唄と踊り

おわら風の盆

西多摩の郷土芸能

「鳳凰の舞」(日の出町)
「羽村太鼓」(羽村市)



総司会 桜田ゆみ



「鳳凰の舞」



「羽村太鼓」

6月25日(土) 羽村市生涯学習センターゆとろぎ大ホール

開場16:30 開演17:00 ★チケット発売:5月7日(土)からゆとろぎ窓口、翌日から各プレイガイドにて発売★

全席指定 大人 500円 小人 100円 (高校生以下) 未就学児入場不可
保育有(有料、申込み締切6月17日(金)までに直接ゆとろぎへ)

お問い合わせ:羽村市生涯学習センターゆとろぎ TEL 042-570-0707

プレイガイド:ゆとろぎ受付窓口、羽村市スポーツセンター、西多摩新聞チケットサービス、マルフジ 6店舗

主催:羽村市、羽村市教育委員会 協力:富山県民謡越中八尾おわら保存会、下平井の鳳凰の舞保存会、羽村太鼓普及会

伝統文化交流事業 in ゆとろぎ

富山県民謡 越中八尾おわら保存会

越中おわら節は、二百十日の風の厄日に風神を慰め、豊作を祈る踊りです。音の基調をなす三味線、哀愁の音色を奏でる胡弓、唄の調子を盛り上げる太鼓、あじわいの唄、そして粋で力強い男踊りと優雅な女踊りをお楽しみください。

保存会は昭和4年に発足して以来、江戸時代に始まり今日まで伝えられてきた唄、踊り、三味線、胡弓、太鼓、囃しなど地方(じかた)の総合的な伝統芸能である民謡「越中おわら」の保存と後継者の育成に努めています。平成17年には法人格を取得し、将来にわたり日本を代表する伝統芸能の継承を目的に次の事業を行っています。

- 1 民謡「越中おわら」の継承と技量向上のための温習とその支援
- 2 民謡「越中おわら」の後継者の育成及び派遣に関する事業
- 3 民謡「越中おわら」の新しい歌詞の募集、選定
- 4 民謡「越中おわら」に関する資料の収集ならびに歴史等の調査、研究

※富山県民謡 越中八尾おわら保存会ホームページより



日の出町 鳳凰の舞保存会

～国指定重要無形民俗文化財～



[あゆみ]

鳳凰の舞は「奴の舞」と「鳳凰の舞」の二庭から成りたっています。この舞は明治年間、早魃のときや悪疫流行の際に行われていました。それが忘れられたように30年あまり過ぎた昭和の初め、村の古老が廃絶を惜しんで村の青年たちに教え、再興したものです。

[みどころ]

奴の舞は7歳～12歳までの少年が鼻筋に1本白く白粉を塗り、両頬に紅をつけ、赤い襦袢に大人と同じ柄の短い単衣を着て、友禪染の三尺帯をたれ結びに、とき色の鉢巻を前に結び、右手に白扇、左手に角鐙のついた木刀を持ち、囃子方の祇園囃子で奴が1人ずつ順々に、白扇

を持った右手を前に伸ばして出すと同時に、右足を前に出し、腰を落として囃子に合わせて白扇を上下させ、左手の木刀を逆手に持って背につけます。次に、立って左足を出し、腰を落として左手の木刀の中程を持ち、輪を描くように回し、この時白扇を持った右手は背に置きます。こうして奴全員が出て、円陣を作ると奴の台詞となります。

鳳凰の舞は、鳳凰を型どった冠り物を頭につけた者5人(うち4人は太鼓の撥、1人は小太鼓を持つ)、赤い頭巾をつけた者5人(うち4人は竹で作ったささら、1人は軍配を持つ)が位置につくと、軍配の掛け声で舞が始まります。打っ込み唄となり、終わると笛で鳳凰、ささらは腰を低く落として左足を前に出し、左手の撥を左足の方角に出し、右手の撥は右肩へ立てます。鳳凰もささらも右回りに活発に舞います。

羽村市 羽村太鼓普及会

日本古来の楽器の一つである太鼓の音色は、日本人の心に深くしみ入り、時には魂を揺さぶり、時には安らぎを与える響きを持っています。羽村太鼓は、昭和55年に、この太鼓の音色による新たな地域文化の創造を目指して作られました。太鼓の打ち方は、組太鼓と呼ばれるもので、この打法の先達の指導を受けてつくられたものです。

羽村太鼓普及会は、羽村太鼓の演奏活動をもって地域や、社会に貢献することを目的として、同年12月に結成されました。

以来、「はむら夏まつり」、「はむらふるさと祭り」、町内会、事業所、幼稚園、学校、老人ホームなどで、催し物のお手伝いや応援のため、太鼓を打ち続けています。

